

Book Review

《眼科臨床エキスパート》 眼形成手術 眼瞼から涙器まで

吉村長久，後藤 浩，谷原秀信 シリーズ編集 高比良雅之，後藤 浩 編

眼形成手術と言えば，特殊な手術機器や手技を要し，手術の結果に美容的な要素が絡んでくることもあって，私たち一般の眼科医にとっては敷居を感じさせる分野である。しかし，本書で採り上げられている「眼瞼」「眼窩」「涙道」は，整容の目的だけでなく視機能の改善と維持に密接に関わってくる部位である。本書では眼瞼下垂，眼瞼内反症，眼窩壁骨折，甲状腺眼症，鼻涙管閉塞など，眼科での外科的治療が期待される疾患について，わが国の第一人者の先生方が解説されている。

本書は「総説」「総論」「各論」の3章で構成されており，第1章の総説では，編集者の一人である高比良先生が，眼形成手術の目標，眼瞼・眼窩・涙道の解剖と病態，検査法と手術適応，麻酔・手術器具・基本手技，そして代表的な疾患の治療について，18ページの短いスペースにまとめておられる。ここで概念をつかんだ後，第2章の総論では，眼瞼・眼窩・涙道の解剖・生理，診断と治療について，さらに詳細に学び，第3章の各論に入っていく。特に基本的な検査についてはこの第2章にまとめて記載されているが，眼瞼下垂の検査など，特別な機器を用いることもなく簡便な方法で有用な情報が得られるのを知れば何だか得をした気分になる。

第3章の各論では，眼形成手術の代表的な術式について43項目にわたって記載されている。執筆された先生それぞれの執刀された手術写真とともに，シェーマで単純化されて手術の概要が示されており，理解がしやすい。各論の各項目はほぼ全て，「Ⅰ．疾患概念と臨床上的特徴」「Ⅱ．診断ならびに鑑別診断と手術

適応」「Ⅲ．手術手技の実際」「Ⅳ．術中・術後の合併症とその対処法」「Ⅴ．術後管理と経過観察」の5つの見出しで構成され，各々の術式について読者として知りたいポイントが網羅されている。専門でない者には，「診断ならびに鑑別診断と手術適応」は最も気になるところである。「眼形成手術」をテーマにした手術書でありながら，病態の的確な把握と鑑別診断の上で，保存的治療で済む場合についても記載されているのが興味深い。また，各項目の最後にコラムのように「一般眼科医へのアドバイス」が記されていて，専門外の者にとっては各術式を理解するための導入部分となっている。ここでは専門家に任せるべきかどうかのラインも示されており，実はこれが本書のエッセンスなのかもしれない。

本書を通して読んでみて，眼形成手術は決して特殊な手術ではないのがわかる。外科系診療科の学ぶべき基本手技を眼瞼・眼窩・涙道に応用し，地道に，経験によって積み上げられてきた手技なのである。眼科医としてまだ発展途上の先生方だけでなく，他の分野の専門家の先生，あるいは形成外科，耳鼻咽喉科，脳神経外科，美容外科など近い領域にある先生方にも本書をお薦めしたい。また，「一般眼科医へのアドバイス」のように，本書には所々に「おもてなし」がちりばめられているので，それを感じてみるのも楽しい。

藤田保健衛生大坂文種報徳會病院教授・眼科
平野耕治

B5・頁480 2016年11月
定価：本体18,000円＋税
[ISBN978-4-260-02811-0] 医学書院刊